

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第9週 (2/27-3/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	9週	8週	7週	6週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	2/27-3/5	2/20-2/26	2/13-2/19	2/6-2/12	2/20-2/26
			9週	8週	7週	6週	8週
小児科	RSウイルス感染症		0	1	3	6	11
	咽頭結膜熱		2	2	2	4	27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42	43	38	42	503
	感染性胃腸炎		95	113	126	92	724
	水痘		3	11	7	4	52
	手足口病		0	0	1	0	1
	伝染性紅斑		1	1	3	2	9
	突発性発しん		9	8	7	10	56
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎		4	2	3	4	23
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★↓	304	441	712	690	3,857
眼科	急性出血性結膜炎		1	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	→	6	6	4	0	22
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	2	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎		2	2	0	2	5
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	画像診断	後天性免疫不全症候群	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	10歳代	IGRA検査	後天性免疫不全症候群	男性	60歳代	病原体等の検出等
結核	男性	50歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	30歳代	病原体の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	80歳代	病原体の検出等
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	風しん	女性	10歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	70歳代	胸水ADA値の上昇	-	-	-	-

・第9週は、結核7件(46)、後天性免疫不全症候群2件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(9) 梅毒1件(8)、風しん1件(1)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第9週のコメント

<インフルエンザ> 前週より減少し10.86となった。流行発生警報終息基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると少なめ。

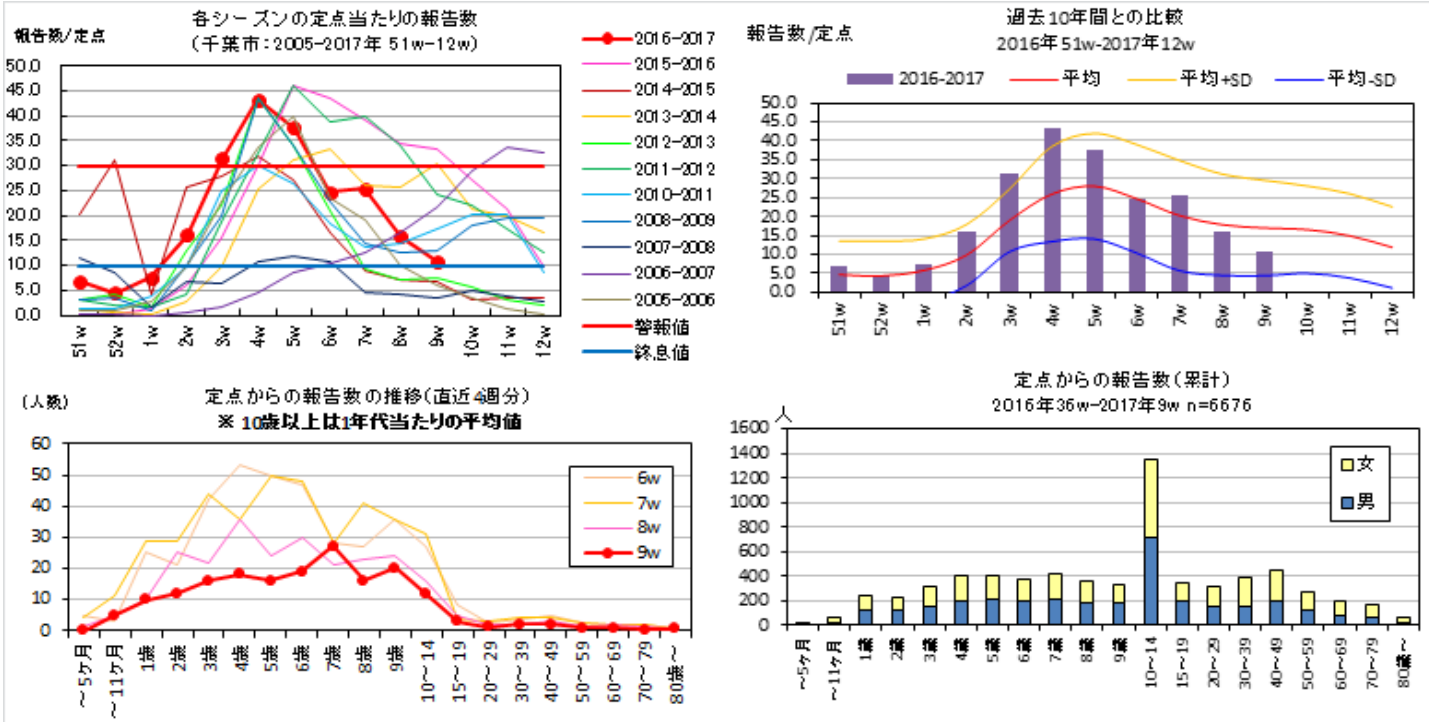
<流行性角結膜炎> 前週より横這いで1.20のまま。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの2017年第8週は、前週より減少していますが、流行発生警報終息基準値(10.0/定点)は上回ったままとなっています。過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、福井県、長野県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2017年第9週は、前週より減少し10.86となりましたが、流行発生警報終息基準値を上回ったままです。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(16.0/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは7歳で最も多く発生報告がありました。この他、中央区(15.0/定点)で流行発生警報終息基準値を上回っている他、若葉区(10.0/定点)で流行発生警報終息基準値と並びました。今シーズンである2016年第36週から2017年第9週までの累積報告数(n=6676)によると、性別では男性が49.5%(3307名)、女性が50.5%(3369名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(6.2%:411名)、5歳(6.0%:403名)、4歳(5.9%:397名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の72.3%、10歳未満は全体の47.0%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの2017年第8週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、熊本県、宮崎県、神奈川県に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第9週は、前週より横這いで1.20のまま、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、若葉区(3.0/定点)と美浜区(3.0/定点)で発生があり、若葉区では3歳、50歳代及び60歳代、美浜区では30歳代で発生報告がありました。2017年第1週から第9週までの累積報告数(n=27)によると、性別では男性が55.6%(15名)、女性が44.4%(12名)で、年齢階級別では30歳代(37.0%:10名)、50歳代(14.8%:4名)、40歳代(11.1%:3名)の順に多くなっています。

